

西川ゴム工業株式会社SDGs宣言

2025年8月3日(日曜日)

「ひろしま海の森づくりプロジェクト」親子で学ぶ海の環境教室!

2025年8月3日(日)、「ひろしま海の森づくりプロジェクト」の一環として、「親子で学ぶ海の環境教室」が開催されました。会場は福山大学因島キャンパス。 海の環境とアマモの大切さについて学びました。

当日は、潮の状況で浜辺には降りられませんでしたが、海を見ながらアマモ場づくりの説明を受け、海の再生について考えました。また、室内ではアマモの光合成実験を体験。福山大学内にあるマリンバイオセンター水族館では、福山大学の学生の解説を聞きながら生きものの展示を見学しました。ヒトデなどに実際に触れてみる体験もあり、子どもたちは大興奮! 生まれたばかりのシロギスの卵の説明もあり、海の生物を間近に感じることができました。

最後は、海の環境についてのチーム対抗クイズ大会で盛り上がり、缶バッジの景品を ゲット! 親子で楽しく、深く学べる一日となりました。

実際に参加した子どもたちの感想を掲載します。

自然りたかなう毎にするためにはあまもは、次要と矢のた。
あまもが二百年のためであるとかった。
あまもは生物の住みかった。
あまもなった。

アマモは色なな生き物のすみかので、生きるために
必要な事か分かりました。アマモは ライトにあててしは当く待っと光合成により葉の切み口がら
気胞の酸素が出てくることが分かりました。
一気胞はり分間に約りが個出てくることが分がました。その他にもアマモの光合成の観察はをなな実験があっておもしっかたです。

アマモは、木ヤ草と同じて二酸化炭素を吸って酸素を出している。アマモは 風たちのすみかにもなっている。水族館のうら面に入ったり魚の標本やたまご、 紅角、ち魚のことがよく分かった。魚は 生長していくにつれて食べ物が変わって いくことが分かった。タツノオトシコでき魚の 「種だと知った。タツノオトシコではオスか」 たまごをうかさせることにおどろいた。

岩場には、食べれるビジキやワカメカでついていることが分かりました。また、干湯には、アマモがはえてることも分かりました。アマモは二酸化炭素をへらすことができ地球温暖化の削減になっていることがすざいなどかんしんしました。すごく楽しか。たです

けんをしたりするのがたのしかったです。

水族館のうらがわを見るのがとくべつ感があって楽しめたです。

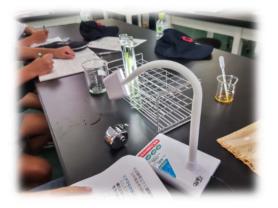
オニオコゼの子どもの時のひれがすごくきれいで めずらしくてすごかったです



アマモを増やすために ~ 福山大学 山岸教授の説明を聞く子どもたち



ヒトデに触れてみて



アマモの光合成の実験



タッチングプールで海の生き物に直接触れることができます!